

株式会社ハーベス

ハーベスの主力工場（伊奈工場の外観）

株式会社ハーベスは自動車をはじめ電気、電子、光学など幅広い工業分野に使われる潤滑剤のメーカーで、2018年4月で会社設立31年目を迎える。業績は好調で、今期は前期（2017年3月期）の売上高44億円を上回り、売上、利益ともに前年実績を10%上回る2桁成長を続ける。その一方で次代の成長分野として天然炭酸水や化粧品の製造・販売、ペット用サプリメントの製造・販売など多角的な事業展開も積極的に進めている。

■会社勤務を経て潤滑剤メーカーとして独立

自動車の様な“動くモノ”には機械的な動作が伴う。動作が起こる際には必ずモノとモノが擦れ合う。例えば歯車同士が噛み合うのはその好例で、擦れ合うモノには金属が多く、擦れ合いによる抵抗により摩耗や熱が発生する。摩耗や摩擦は製品の寿命や性能に大きな影響を与えることから、それを防止する

ために使用されるのが潤滑剤だ。擦れ合う部分に潤滑剤を塗布することで動きを滑らかにすることができる。ハーベスは潤滑剤の総合メーカーであり、用途別に特殊な製品を開発し産業界に提供してきた。

ハーベスの創業者である前田知憲社長は会社勤務を経て1988年に同社を設立して独立。以前はメーカーで営業を担当していたが、そこでは営業の傍ら製品開発のための試作や実験の手伝い等も積極的に関与しており、5年ほど勤務した後に独立することを決めた。

独立を決めたものの、どうしようかと悩んでいると“ウチの仕事を手伝わないか。場所も一部を使って構わない”との誘いがあった。相手は池袋に事務所を構えていた充填会社の社長だった。その会社は大手模型メーカーのキットに入っているグリースを充填する仕事をしてきた。グリースはギアなど機械



ハーベスが手掛ける梱包充填品の事例

同士の部品に差して使う潤滑剤の一種で、前田社長はこの会社の一角を間借りしてハーベスを立ち上げ、自社オリジナル製品である「ハイルーブ」の製造・販売を始めた。

■自社開発第1号製品を光学メーカーに売り込み成功

ハーベスは設立4年後の1992年7月、本社を浦和市内（現さいたま市）に移転する。間借りしていた工場が急遽移転する事になってしまい、また本格的な自社製品となる速乾性潤滑剤「ドライサーフ」を同年4月に発売、今後の生産拡大が見込まれることから移転することを決めた。

「ドライサーフ」は「ハイルーブ」と同じ潤滑剤の一種だが、ハーベスが自社で独自に開発した製品の第1号で、前田社長は販売に期待を込めていた。というのも、当時、ドライサーフと同様に速乾性のある潤滑剤はすでに市販されていたが、ドライサーフは他社製品よりも均一な潤滑機能を持たせる性質を特徴にした製品で、機能性で一步秀でていた。前田社長はまず精密機器用の潤滑剤として、販売ターゲットを光学メーカーに定め、売り込みを図った。当時、業界ではオートフォーカスの一眼レフカメラが発売され、売れ始めていた。オートフォーカスのカメラは、レンズの焦点を自動的に合わせるが、前田社長はドライサーフをオートフォーカスの駆動部分に使ってみてはどうかと提案した。狙いは見事に当たり、光学メーカーの担当者は、「これはすごい。こんなものは今までなかった」と感嘆したという。

時代も味方をした。当時、環境破壊防止の観点からオゾンを含んだ溶剤の使用が日本でも禁止されようとしていた。代替する溶剤を使用した製品はすでに他社から発売されていたが、いずれも水溶性の溶剤であった。水溶性タイプはリサイクルが容易というメリットがあるが、乾くまでに時間を要した。工場で



潤滑剤の商品群

は生産効率を上げるために1分1秒でも早く乾燥させて次の作業に進めたい。ハーベスの製品は、オゾン層を破壊せず、さらに速乾性であったことから顧客が飛びついた。販売は他の光学メーカーへも広がっていった。

こうして光学メーカーを皮切りに世の中に出ていったハーベスの潤滑剤であるが、現在の最大の顧客は自動車業界となっている。

潤滑剤は必要な原料を配合・調合して目的の機能を持たせるのだが、前田社長は潤滑剤づくりを“ラーメンのスープ”づくりに例えてみせる。「潤滑剤は微妙なブレンドの世界。原料をどういう割合・手順でバランスよくブレンドし調整したら、ちょうどいい、目的に合った商品ができるのか、試行錯誤を繰り返す世界なのです。」と話す。秘伝の味ならぬ、独自のレシピで作られる同社の製品は、日本の製造業を陰で支える存在になっている。

潤滑剤は用途となる機械製品がある限り需要は存在する。しかしその一方で、EV（電気自動車）の登場に見られる様に、世の中の製品が次第に電子化していく中で、右肩上がりの市場ではなくなっているのも事実。ハーベスはそうした時代の流れ、技術の変化をいち早く的確に捉えながらビジネス全体の強化を目指してきた。その1つが「デュラサーフ」だ。「デュラサーフ」は潤滑剤で培った経験と開発力をコーティング剤に生かしたもので、10年ほど前に立ち上げた。「デュラサーフ」は精密なプリント基板の防湿コー

ティングやスマートフォン等のタッチパネル面の防汚・耐指紋コーティング、また樹脂成形等に用いる金型の離型剤等の用途を持っており、現在では年商3億円規模の商材に成長している。

■分野にこだわらず複合的な ビジネスモデルで成長を目指す

またハーベスは「デュラサーフ」の発売とほぼ同時期に、新規事業として炭酸水をボトルリングして販売するビジネスに乗り出した。きっかけは、ある時新たな事業を模索していた前田社長の元へ「福島県の奥会津に炭酸水が自然に湧いているところがある」という情報が寄せられたことだ。国内には天然の炭酸水が湧き出る場所がいくつかあるが、いずれも湧水量に乏しい。しかし紹介された奥会津の金山町には瓶詰めして販売できるだけの量が確保でき、そこでは江戸時代にはすでに陶器の瓶に炭酸水を詰めて販売をしていた歴史があることも判明した。しかし地理的な問題や販売活動、マーケティング上の課題などから、事業の継続が困難な状態になっているという。「ならば自分が復活させよう」と、その事業を譲り受け、新たな井戸を掘り、その真上にボトルリング工場を新築して天然水事業を始めた。

一見、潤滑剤と水のビジネスは関係性に乏しい様に感じるが、前田社長は「既存のビジネスから派生したビジネスや、他社が手掛けない付加価値の高いビジネスを当社は手掛けていきたい。分野にこだわらず様々なビジネスを生み出し、その複合体として利益率の高い企業に育て上げたい。そういう新しい事にチャレンジする企業文化でなければ会社は成長しない」と語る。そうして生み出された天然水事業では、現在年間100万本ほどのボトルリングをして、主に首都圏の高級ホテルやレストラン、料亭などに販売されている。また首相官邸や迎賓館、外務省にも常備され、



伊勢志摩サミットに提供された天然炭酸水

2016年の伊勢志摩サミットでは専用のマーク付きボトルで納品し、来日した海外のVIPたちからも高い評価を得た。昨年からはシンガポールの空港でも販売されるなど海外進出も果たしている。

■念願の化粧品品の自社製造へ

前田社長の志とチャレンジは、次々とビジネスとして華を咲かせようとしている。化粧品事業もその1つだ。同社は2014年に化粧品事業部を立ち上げて同分野に事業進出した。第1弾として「Metlasse (メトラッセ)」というブランドで40代以上の女性をターゲットに美容液を発売した。また、2015年には第2弾として自社の天然炭酸水を使った化粧品ブランド「awaizu (アワイズ)」を立

—肌の根本へのアプローチ—

Metlasse



化粧品「Metlasse」

ち上げた。

同社の化粧品は、これまではOEM（相手先ブランドによる生産）で商品化していたが、近い将来、自社開発・自社生産に乗り出す予定だ。潤滑剤を生産する同社の主力工場でもある伊奈工場（埼玉県北足立郡）の隣接地に、潤滑剤・コーティング剤・化粧品の、研究開発センターを兼ねた生産拠点を建設する。すでに本社では埼玉県から化粧品の製造・販売業の許可が下りているが、新たに建設する拠点においても2019年中にも化粧品製造業許可を申請する予定だ。前田社長は化粧品事業への想いについて、「化粧品は、当初はOEMで製造を委託していたが、近い将来自分たちの手で、自社工場で製造したいという気持ちをずっと持っていた」と話す。近い将来、自社工場で製造された化粧品が市場で販売される見通しだ。

また、同社は化粧品に続いて力を入れているのが、ペット用のサプリメント事業だ。2016年の3月に100%出資子会社の株式会社NSTを設立、動物用栄養補助食品「Vercure（ヴェルクア）」の製造・販売を開始した。国産野菜を原料に特殊な粉碎方法を用いて栄養を破壊しないよう工夫したのが特徴の製品で、専門家の指導を仰ぎ共同で研究を推進しながら、主にペットの治療補助に使うサプリメントとして販売している。新規事業ながら「この事業は非常にうまくいっている」と前田社長は頬を緩ませる。

■日本一社員が幸せな会社を目指す

ハーベスは2017年度に30周年を迎えたが、次のビジネスシーンをどう捉えているのか。業績について前田社長は「50億円は間もなく見えてくるだろう」と力強く語る。一方、今後の事業については「他社に真似できないようなアイデアや商品を生み出すことができ、付加価値の高い製品づくりが得意な会社を目指していく」とする。また現在建設計



社内にあるバー

画を進めている新たな拠点の敷地内には、近い将来カフェテリアのような従業員食堂を作りたいという希望をもっている。「実現の暁には近隣一般の方々にも開放したい。自社製造のクラフトビールを出すカフェレストランを併設して、地元の方々にも気軽に利用していただくのが私の夢。5年以内には実現したいと思っている。」（前田社長）と話す。

ハーベスのホームページを覗くと「日本でいちばん社員満足度が高い会社」を目指すというメッセージがある。近い将来、社員が真新しいカフェレストランで地元の人々と一緒にビールを飲みながら、会社の将来を語るシーンが見られるかもしれない。

企業概要

株式会社ハーベス

代表取締役：前田知憲

創 立：1988年

事業内容：特殊潤滑剤・フッ素関連製品の製造・販売、天然炭酸水の製造・販売、化粧品の企画・製造・販売など

本 社：さいたま市浦和区常盤9-21-14

電話番号：048-824-2621

取 引 店：北浦和支店

